

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.816
2018.11.11

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

山崎 あきら	久保 みき
神田よしゆき	もりや千津子
戸島 よし子	松村 としお
とりうみ敏行	大木 学

ゆきとどいた教育のため 少人数学級の推進が必要

政令市（20市）の
少人数学級のとりくみさいたま市
小1・2…35人 中1…38人*さいたま市より少人数学級を拡大
18市（大阪市・さいたま市以外）*小・中全学年で少人数学級
9市（千葉市、川崎市、横浜市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、岡山市、北九州市）*小1～6で少人数学級
11市（上記に加え堺市、広島市）

懇談に同席する松村市議（左端）

10月31日に「30人学級を実現するさいたま市民の会」のみなさんが、さいたま市教育委員会と懇談しました。党市議団から松村としお市議が同席しました。

同会はさいたま市での少人数学級実施を求めて、毎年請願署名を議会に提出しており、今年も署名活動にとりこんでいます。市教委との懇談も毎年おこなわれています。

少人数学級実施の要望に対し、教職員人事課長は、意義は認めつつ「国の動向を見ている」として、「教員増を国に求めている」と話しました。また、「少人数指導で実績を上げている。さまざまな職種を配置して子ども

たちを見ている」と市の方針について説明しました。

懇談に参加した市民は「少人数指導はその教科だけで、終わればまた大人数になる。生活や給食は少人数にならない」と指摘し、「少人数指導は一瞬だが、少人数学級はずっと少人数のまま。教員や子どもにとってどちらが優位かは明らかだ」と重ねて少人数学級の実施が要望されました。

あわせて、代表世話人の中川晋輔さんから

吉田一郎議員の9月議会での暴言について、党市議団として見解を発表しました。

吉田一郎議員の障害者差別の暴言についての見解

日本共産党さいたま市議会議員団 団長 山崎 章

吉田一郎議員は10月19日、9月議会の最終日の本会議討論で、心身障害者医療費支給条例の改正に関連して「障害者でも中には、うちにもいますけど、年収1354万5千円の車椅子に乗った障害者の方がいらっしゃるわけですよ。こういった高収入のブルジョア障害者の方は…」として車いすで活動している議員を指して差別的な発言を行った。吉田一郎議員のこの発言は、本会議において問題とされ、議長において発言を確認し対応をはかることが確認された。

後の議会運営委員会で議長は、吉田一郎議員の発言に嚴重注意を行ったこと、吉田一郎議員は謝罪も発言の取り消しにも応じないことを明らかにした。議事録の削除については、差別発言を受けた議員の所属会派から削除の必要はないとの申し出があり了承された。この一連の経過から見て、吉田一郎議員には、発言についての明確な反省の態度は見られない。吉田一郎議員の今回の暴言は、障害者に対する差別的な考えがはっきりと表れている。

吉田一郎議員は、2018年2月議会で、市職員に対して「首つって死ね」と暴言を発し、2日間の出席停止の懲罰と議員辞職勧告決議が可決されるなど議会からも厳しく批判されたばかりである。そのうえでの今回の暴言は、許されるものではない。

市議会議員は、市政において市民福祉の向上のために活動する。その議員が障害者を差別する発言を議会で行うなど、議員として資格がないといわなければならない。

吉田一郎議員は、自らの発言の政治的、道義的責任を自覚し、自らの判断で議員の職を辞すべきである。

以上

は「少人数学級の効果を検証する調査をしている自治体がある。本市でもモデル校というかたちでやってみてはどうか」など具体的な提案も出され、少しでも子どもたちの教育条件がよくなるようとりくむことを求める発言がありました。

同席した松村市議は「さいたま市より学級編成規模で遅れているのは大阪市だけ。少しでも要望が実現するよう求めていきたい」と話しました。

さいたま市の
**教育の未来を考える
シンポジウム**
11/17 ± 13:30 ~
ときわ会館 5F 大ホール

*パネリスト
長澤 成次さん（千葉大学名誉教授）
芳賀 和夫さん（より良い教科書を求めるさいたま市民の会）
もりや 千津子さん（さいたま市議会議員）

戦争の惨禍と 平和の大切さを後世に

10月29日、さいたま市戦没者追悼式が市民会館おおみやでおこなわれ、約350人が参列しました。この式典は、さいたま市と市内の遺族会（浦和、大宮、与野、岩槻）が戦没者の追悼と恒久平和を祈念して毎年開催しているものです。党市議団より山崎あきら、大木学両市議が参加しました。

さいたま市平和都市宣言（2005年）では、「平和を希求する私たちさいたま市民は、国際社会の一員として、世界に開かれた都市づくりを推進するとともに、核兵器等の廃絶と世界の恒久平和実現に貢献する」とし、こう



献花をおこなう遺族会の方々

したとりくみがおこなわれています。

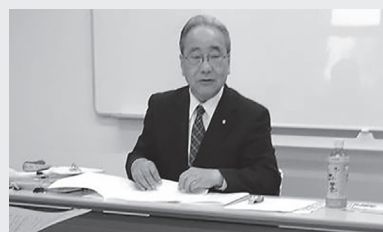
遺族の代表者からは「先の戦争の惨禍と平和の大切さを後世に伝えるのが我々の役目だ」とあいさつがありました。

大木市議は「憲法は二度と戦争をしない決意を明記している。遺族のみなさんの願いは平和憲法を守ってこそ生きると感じた。市長は国に対して憲法を守るよう意見をあげるべきだ」と話しています。

西区 馬宮地域で議会報告会

西区馬宮地域のみなさんが、党市議団からとりうみ敏行市議を招いて「議会報告会」をおこないました。

とりうみ市議は約1時間にわたって、2017年度決算で明らかになった市民のくらしの現状をはじめ、大型開発優先で借金を増やしながらか心身障害者医療費支給制度や難病見舞金などの障害者・高齢者福祉を17億円も削減し、63億円の黒字決算となった反面、市の借金の総額が約4550億円に上っていることなどを報告しました。



参加者からは公民館などの建て替えにともなう複合化の問題や、防災関係では、指扇小学校の避難場所指定問題、滝沼川遊水地整備、コミュニティセンターの抽選方法や機材の使用料などについて意見や要望が出されました。

新川の改修問題での相談もあり、今後市議団として相談に応じることや市議の派遣を約束しました。

子どもの権利・福祉・教育・文化さいたまセンター シンポジウム

現場の声を生かした 子育て施策を

11月4日に「子どもの権利・福祉・教育・文化さいたまセンター」がシンポジウムを開催し、党市議団から大木学、松村としお両市議が参加しました。

パネリストとして、子育て中の親、保育士、小・中学校の教員がそれぞれの立場から報告しました。

学校ではSNSや性教育など、子どもたちをめぐる課題があり、さいたま市でおこなわれている英語教育（グローバルスタディ科）によって現場が混乱している様子が明らかになりました。また、保育士からは、幼児教育の無償化が迫っているもとで、保育園給食が有料化される懸念があることも報告されました。



シンポジウムに参加する松村市議と大木市議

さいたま市で競争的な教育が強められていることや、教員の多忙化が言われながらもますます追い込まれている現状への懸念、子どもの権利を尊重した教育への転換や、国の教育行政の問題など、参加者からも活発な発言がありました。

参加した松村市議は「市は国の施策に沿った部分では力をいれるが、現場の声が置き去りにされていると感じた。切実な願いをていねいにくみ取って、行政に反映させるよう求めたい」と話しました。

あなたの身近な議員です



市議(中央区)



市議(北区)



市議(見沼区)



市議(浦和区)



市議(桜区)



市議(南区)



市議(緑区)



市議(岩槻区)

山崎あきら 神田よしゆき 戸島よし子 とりうみ敏行 久保 みき もりや千津子 松村としお 大木 学